

## 「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	東京工業大学	整理番号	2001
プログラム名称	マルチスコープ・エネルギー卓越人材		
プログラム責任者	高田 潤一	プログラムコーディネーター	伊原 学

### (評価決定後公表)

#### (総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

#### [コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立に関して、既存専攻の学位プログラムと学際的分野によるマトリクス型のプログラムを確立、全学展開可能なプログラムが構築執行されている。令和6年度からは本プログラムの学位プログラム化も決定しており、全学の大学院改革を先導する取り組みとして高く評価できる。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については国内外の連携機関との有機的な連携を構築し、研究のみならずインターンシップ機会、学生のキャリアパス設計・実現に繋げている。また同窓会とも連携し修了生のキャリアパスフォローアップの仕組みも構築運用され、その実績も出ており高く評価できる。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については国内外連携機関のメンターと学生の間で細かな指導＋コミュニケーションの仕組みが確立されており、学生はこの体制に非常に満足している。連携機関とは国/地域の環境、文化、慣習や社会課題など多様な背景についても学ぶ機会を提供していることも高く評価できる。

優秀な学生の獲得については学生数については複数年度にわたって計画を下回っており、当初計画（＋期待）された履修生の獲得への取り組み、または計画の見直しが求められる。

世界に通用する確かな質保証システムに関しては国内連携機関メンターによる継続的な達成度評価と指導が行われており高い質保証の仕組みに加えて学生の成長にもその効果が表れているところが評価できる。

事業の継続・発展については外部資金の調達に加え学内資金の活用と連携した自己資金計画を構築しており、補助期間終了後もプログラムの継続が可能となっている。